

日進防災推進連絡会

誰ひとり取り残さない防災・減災を目指して、市民の力・地域の力をあげる

日進防災推進連絡会は、防災士と愛知県の防災・減災カレッジの受講修了者により2012年に発足しました。以来、精力的に日進市と協働して地域防災を推進しています。災害時の備えや対処方法などについて、市内各所で行前講座を開催して市民に啓発活動を行う傍ら、日進市が実施する避難所開設運営訓練のファシリテーター

ターとしても毎年参加・協力しています。昨年の子ども向けの防災出前講座では、ビニール袋のレインコートや新聞紙スリッパを作成し、大人向けには防災講話や防災クイズなどで、災害が起こったときに身を守る方法を伝えました。常に最新の防災・減災情報が共有できるよう定例会や勉強会を定期開催し、日々研鑽を積み、災害時「誰ひとり取り残さ



避難所開設運営訓練で運営本部係を見守る防災推進連絡会員

日進防災推進連絡会
連絡先 090-5032-2147(鈴木)

わいわい集える市民活動支援センター 日進市にぎわい交流館の情報マガジン

にぎわい Vol.29

2025年 NEWS



日進市にぎわい交流館
公式キャラクター「わいわい」

[特集] 市民活動団体インタビュー

日進災害ボランティアコーディネーターの会



災害ボランティア について考える

ワンデイシェフ

11:30頃～

喫茶 喫茶の提供がない場合もございます。

第4木曜日 **2025年2月まで**
日進生活改善実行グループ

金曜日 **1月開始予定**
オールフォーユー

月曜日 **2月開始予定**
キッチンと食堂

ワンデイシェフ募集中!
詳しくはにぎわい交流館まで。

第1木曜日 **花菜豆**

伝統和食の温かさと中医薬膳の奥深さをお膳で



第2木曜日 **日進 LOVE ラボ 星のたね**

みんなの「あったらいいな」をカタチにしてい



土曜日 **名古屋学芸大学 Canteen**

管理栄養学部の学生が作るランチ



第2日曜日 **日進絆子ども食堂**

地域の子どもたちと大人たちの居場所



第3・4・5木曜日 **にぎわいおひるごはんの日** 不定期 **にぎわい喫茶** ワンデイシェフの活動がない日はにぎわい交流館が提供します。

マーケット・ギャラリー

手作りの品・こだわりの逸品がお買い得!

マーケット 10:00～16:00

(時間は出店者により異なる場合があります)

月・火 **ななサポ** (休止中)

第1木 **花菜豆**

第2木 **手作りサークル PiPpi・日進 LOVE ラボ**

第3水・第2木 **薔薇しかない花屋 Neo**

第3・4木 **スマイルハウス** (3月で終了予定)

第4水 **ポレポレ**

市民のみなさんの力作を見に来て!

ギャラリー 8:30～20:00

(最終日は15:00まで)

2/2(日)～2/15(土) **松谷翠「小さな花ギャラリー」**

2/17(月)～2/27(木) **シルバーカルチャー講座「カルチャー講座作品展」**

3/2(日)～3/15(土) **南ヶ丘ちぎり絵サロン「南ヶ丘ちぎり絵サロン作品展」**

3/16(日)～3/30(日) **シルバー写真同好会「花散里写真展」**

4/2(水)～4/15(火) **柴原薫「柴原薫静物写真展 14」**

※ワンデイシェフ・マーケット・ギャラリーの内容については変更になる場合もございます。ご了承ください。(2025年1月5日現在)

日進市にぎわい交流館

電話 **0561-75-6650**

ファクス **0561-73-5810**

電子メール **nigiwai@me.ccnw.ne.jp**

〒470-0122 愛知県日進市蟹甲町中島277-1

<開館時間>

サロン 8:30～20:00

会議室 9:00～20:30

<休館日>

年末年始(12月28日～1月4日)

最新情報はここから



ウェブサイト



LINE公式アカウント



Instagram



facebook

Contents

- [特集] 市民活動団体インタビュー
- にぎわい掲示板
- ワンデイシェフ・マーケット・ギャラリー

日進災害ボランティアコーディネーターの会

連絡先 0561-72-3227(森川) 090-8234-0345(藤井)

(写真) 段ボールベッドの組み立て演習や、災害ボランティアコーディネーター養成講座・訓練時の様子



災害ボラ
必需品



藤井さんの7つ道具

メモ・ペン・ハサミ・
軍手・携帯電話・体温計・
血圧計

災害ボランティア コーディネーターの会の役割

「現地を見るとほんとに凄い。1階が潰れてその上に2階が
かぶさって家がぺしゃんこなんです」

そう語るの、災害支援活動をしている『日進災害ボラン
ティアコーディネーターの会』(以下、『災ボラの会』)の藤井さんと奥
家さん。二人は災害ボランティアコーディネーターでありながら
レスキューストックヤード*のボランティアとして活動しています。

能登半島地震でも発生後約1か月で被災地に入り、災害ボラ
ンティア活動に参加されました。

災害が起きると被災地には災害ボランティアセンター (以下、
センター)が開設されます。もし日進市内で災害が起きたときは、
日進市中央福祉センターにセンターが設置される予定です。
『災ボラの会』は日進市と日進市社会福祉協議会と協力してセン
ターを支え、速やかな復旧・復興を目指します。

災害ボランティアコーディネーターはセンターに駆け付けた
ボランティアと助けを必要とする被災者をつなぐ、重要な役割を
果たします。

『災ボラの会』のメンバーは、災害ボランティアコーディネ
ーター養成講座を修了し、災害時にスムーズな支援活動ができる
よう、日頃から災害時の支援活動、センターでのコーディネ
ーター業務などの勉強会や訓練をしています。



2024年6月「自衛隊の災害派遣」研修会の様子

※認定特定非営利活動法人レスキューストックヤードは、過去の災害で学んだ教訓を活かし、災害に強いまちづくりのお手伝いをしています。

災害ボランティアを目指した きっかけ

普段は看護師として働く藤井さんのきっかけは東日本大震災。
災害ボランティアに関わりたく、日進市が準備した災害ボラン
ティアバスで参加しました。

奥家さんは東海豪雨。「とにかく現地を見に行ったら、その現
状に驚きました。ここで生活しているのか…何とかしなければ」
その思いでボランティアに参加しました。始めは力仕事のボラン
ティアをやっていましたが、運営の大切さを知り、運営に携わる
ようになったそうです。

二人とも、日進市社会福祉協議会が年1回実施している『災害
ボランティアコーディネーター養成講座』を受講後、『災ボラの
会』のメンバーになりました。

「顔の見える関係」こそが架け橋

被災地でのボランティア活動は、想像以上に厳しいものです。
水も電気もない寒冷地での宿泊。陥没や隆起した道路を使っ
ての移動。ガタンと車が浮いたりするのはしょっちゅう。夏はもち
ろんエアコンなんてありません。ですが、二人は大変だとか苦労だ
とは感じないといいます。それは何故なのか。

「ボランティアに行く期間が決まっているからですよ。4泊5日と
か3泊4日とか。被災地にボランティアに行くということは不自由
のない普通の生活ではないことはわかっているの、この期間
だけという終わりが見えているからできるんだと思います」

それよりも炊き出しのときに提供できる量の少なさが辛かつ
たといいます。「集落におにぎりも届けたんですが、一般的な大
きさの半分の量で、ほんとに小さいものを1つ。届くのを楽しみ
にしてくれていて、ここまで運んでくれてありがとうと言って、誰も
不服を言わない。ほんとに泣けてきました」

二人の活動の源は何だろう。何が災害ボランティアへと動かす
か聞いてみると、二人とも同じ答えが返ってきました。「被災者
の方が顔を覚えていてくれて。また来てくれたね。今度はいつ来る
のって声をかけてもらおうと嬉しくてまた来ようかな、やり遂げたい
気持ちになるというか。被災者の方とお話するとやっぱりその
方のことが気になるんです。元気にしていると嬉しいし。顔の見え
る関係の活動をさせてもらっています」

目からうろこの防災対策

- 備蓄用の水を利用したベッド。
8ケース(2ℓ6本入)を脚にして、その上に板と布団。
「96ℓの水を確保！丈夫で寝心地も良いですよ」
- ベッドの足元にはスリッパではなくハイカットの靴。
- 家具の転倒防止と非常用持出し袋の準備はもちろん。
- 背の高いものは置かない、買わない。

経験を生かして備える

「ボランティアの要望を聞いて、助けを必要とする被災者とどう
マッチングさせていくのか、センターをどう運営していくのかな
ど、現地に行った経験を『災ボラの会』に反映させたい」と藤井さ
んは言います。

「現地に行かれた方には定例会で報告してもらい、会として知
識を高めています。実践がないのでイメージしながら少しでもス
ムーズに開設し運営していけるように。災害が起きるとセンター
は屋外に開設することが多く、外でのボランティアの受け入れ、
水がないときの手洗い方法、電気も水も通信もない中でどのよ
うな生活になるのかを知ることは重要です。経験したことを実践
してアップデートしながら知識として身につけて、センターの運
営に役立てたいと思っています」

奥家さんが経験して絶対に必要だと思ったのはロープワーク
やテントの設置と土嚢作りだと言います。「知識を少し持っている
だけでも違う。ロープワークは教えてもらったことがあったので、
被災地で漂流物をトラックに固定するときに本当に役に立ちまし
た。また、被災地では被災者が情報を入手できない状況にあつ
たので、被災者とLINEグループを作って、炊き出しの日時や場所
など情報を流したりしました」

災害時に私たちはどうすれば良いのだろうか。二人は口をそ
ろえます。「一番大事なことは自助。自分の命を守れたら被害が少
なくなり、被害が少なければ支援することも少なくてすむ。自分
の命を守ることが他人の命も守ることにつながります。そして助
けてほしいこと、情報を得ること全てにおいて能動的に動かない
といけません。炊き出しなどの情報は自分から求めることが欠か
せません。だからこそ人付き合いが大事になってきます」

自分の身を守るための水や食料の確保、家具の転倒防止策な
どに務め、挨拶だけでもよいので、まわりとつながっておくこと
が、防災・減災のために私たちができる大切なことです。

「まずは自分の身を守り、他の人の助けができるのであれば、
ぜひセンターに来てほしい。あなたにしかできないことがきっと
あります」

災害ボランティアの心得

- 被災地に行くということは
「不自由のない生活ではない」ことを肝に銘じる
- 下調べをする
レスキューストックヤード災害ボラの予備知識→
- 自分のことは自分で自己完結



2024年9月
施設見学。
日々研鑽を積む
メンバー。



能登の被災地で倒木などのゴミを拾い集めるボランティア

助けたいと思う人が集まると 大きな力が生まれる

災害時は協力してくれる人がいればいるほど、助かる人も増え
ます。助け合う人の存在が何よりも心強く、人の力が集まること
で、困難を乗り越える大きな支えになります。

2月には『災ボラの会』が協力している、日進市社会福祉協議会
主催の災害ボランティアコーディネーター養成講座が、3月には
災害ボランティアセンター開設・運営訓練が実施されます。講座
を受講すると、災害ボランティアコーディネーターの資格がもら
えます。愛知県が実施するボランティアコーディネーター養成講
座などでも資格を得ることができます。

自然の力は止めることができませんが、災害を最小限に抑え
ることはできます。

もしものとき、
あなたの力が最大の支援力！

災害ボラ
必需品



奥家さんの7つ道具

養生テープ・ナイフ・カイロ・
タオル・応急セット・オキシ
メーター・携帯バッテリー

